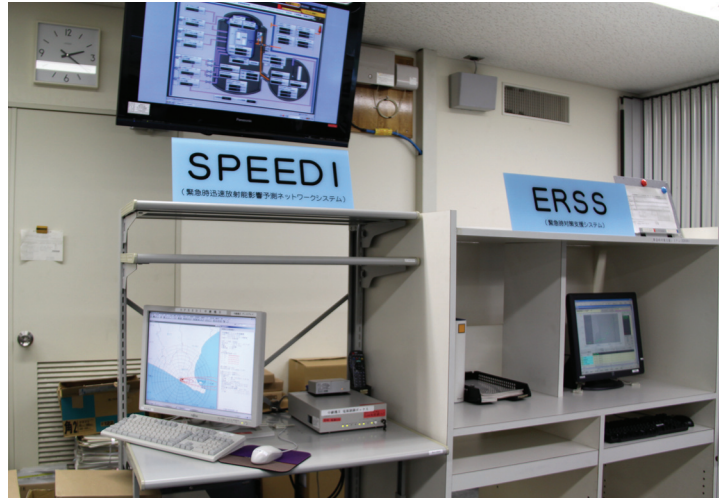


保安院

自動監視体制に移行へ 緊急時支援システム不 작동で



原子力安全・保安院は十一日、緊急時対応支援システム(ERSS)のプラント情報表示システムが十二月三十日から同三十一日十四時三十三分に復旧させるまで作動していなかった原因について、発表した。

原因は、プラント情報表示システムのデータ処理ソフトウェアを長期間使用していたため、一時的なデータ保存に必要なメモリ領域が不足し、同ソフトウェアが停止したためと判断した。同ソフトウェアが停止した時刻が昨年十二月三十日午前九時四十八分であることから、プラント情報表示システムが作動しなくなった時間も同時刻と判

断した。同システムは、各原子力発電所の格納容器内の圧力や温度など、原子力施設のプラント情報をモニターに表示するもので、原子力安全基盤機構が運営し、ソフトウェアの動作状況の確認などを

行った結果、復旧した。今後の再発防止については、ERSSの二十四時間監視・通報の人的体制を二月二十日までに整備し、自動監視・通報システムを三月末を目途に整備することとしている。

可搬型の処理装置を開発

東芝とIHI 放射能汚染水対策で

東芝とIHIは、可搬型の放射能汚染水処理システム「SARR Y-Aqua」(II写真)を共同開発し、今月から東芝が中央官庁や地方自治体などと、本装置を使った活動について協議を開始する。



同装置は、福島第一原子力発電所で稼働する汚染水処理装置「サリ」

原産協会は、このほか、報告会では過去一年間に行われた活動がそれぞれ紹介された。

「あなたに知ってもらいたい原産制度二〇一一年版」を作成した。

人材育成NWが初の報告会開催



原子力関連機関が参加し効果的な人材育成の推進を目指す「原子力人材育成ネットワーク」は昨年十二月二十日、都内で第二回報告会を開催(II写真)し、ネットワーク発足から一年間の活動を振り返るとともに今後に向けた情報・意見交換を行った。

理事長は開会挨拶の中で、「福島原子力発電所事故を踏まえネットワークは八月、原子力人材育成の方向性を整理し、技術者・研究者にとり高い倫理観と安全文化が必須であるとの観点から人材育成に取り組み、安全確保に貢献するとの覚悟をあらたにした」と述べるとともに、世界の今後の原子力発電所の安全を確実に維持していく上で、事故の反省を胸に刻んだ適切な人材の育成・確保のためにも同ネットワー

クの使命は大きいと強調した。特別講演者として出席した松浦祥次郎・元原子力安全委員長は講演の中で、原子力活動にふさわしい人材について触れ、①常に問い直す態度②厳正で慎重な思考と行動③情報の伝達と共有④原子力安全文化を体現するために必要な基本的特性と指摘し、安全文化は実務を通じて醸成・堅持され、次世代に継承されることが不可欠と強調した。

このほか、報告会では過去一年間に行われた活動がそれぞれ紹介された。ネットワーク事務局を中心とした国内人材の国際化・高等教育や初等中等教育・実務段階人材育成に関する活動状況、ネットワークシステム構築の現状が報告されたほか、参加機関である大学や高等専門学校、研究機関や産業界からは個々の特徴を活かした人材育成活動の具体的取り組みが紹介された。

「あなたに知ってもらいたい原産制度二〇一一年版」を作成した。同冊子は、原産協会の月例メールマガジンで二〇〇九年三月から二〇一一年十月にわたって掲載した「あなたに知ってもらいたい原産制度」の三十回分をまとめ、最新の情報やデータを加筆修正したもの。原産制度の基本的事項や、福島原発事故の損害賠償に関する大きな枠組みについて解説しており、原産協会会員千円、非会員二千円(税送料込み)で頒布している。問い合わせは、原産協会政策推進部(電話03-6812-7153 /メール genhai@jai.or.jp)まで。

株式会社テネックス・ジャパン
TENEX-JAPAN Co.,

東京都港区虎の門5丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー14F
(Tel) :03-5776-1511 (Fax) :03-5776-1512



Leading Supplier of Nuclear Fuel Cycle Goods and Services

